



## しとぎょうでん 使徒行伝：サウロ、かごに 乗って 町を 脱出する

(使徒行伝 第9章 8-25節)

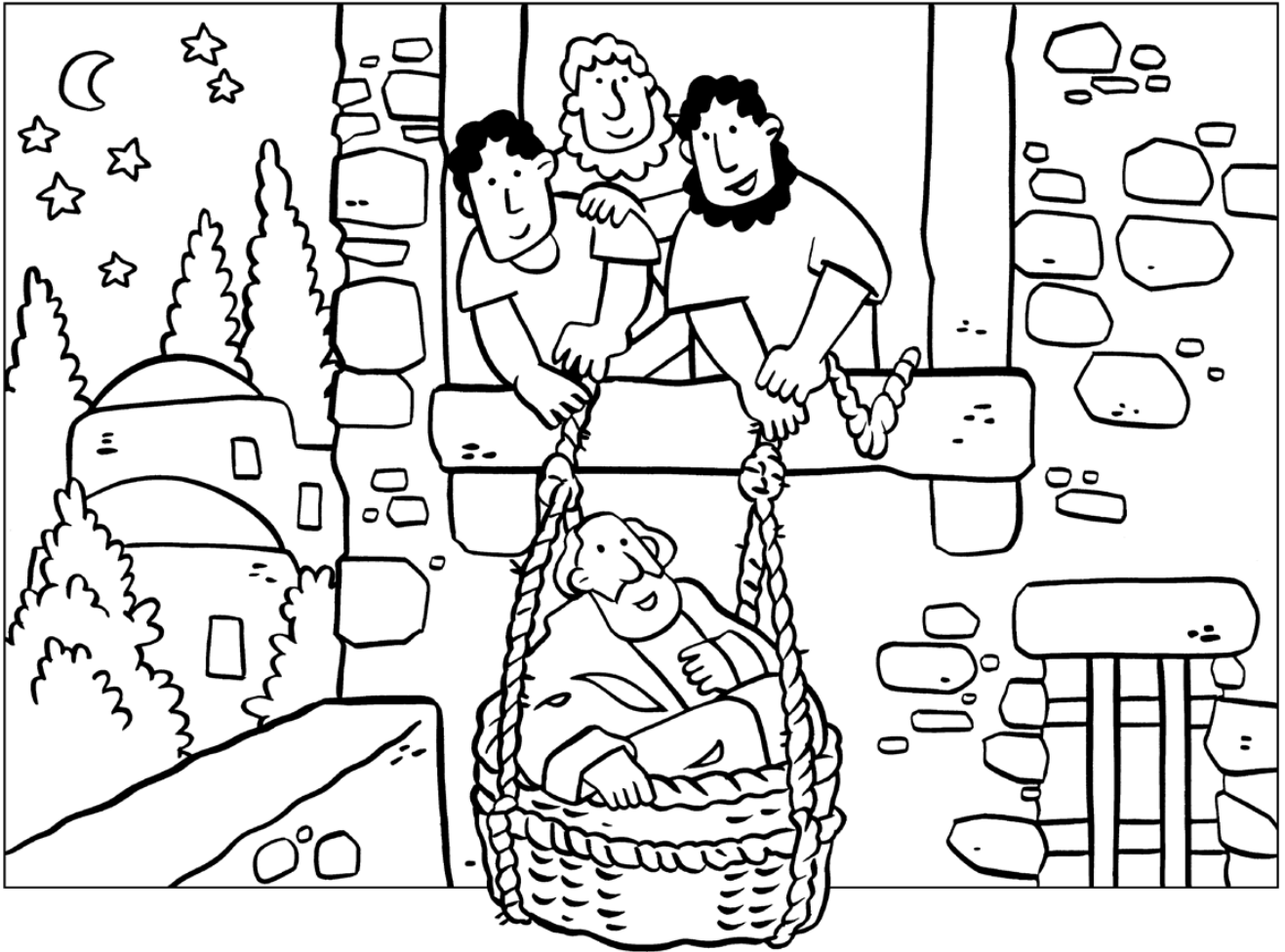


サウロのち（後にパウロというなまえ 名前になる）は、まぶしいひかり 光で め 目が み 見えなくなり（「使徒行伝：ダマスコへの みち 道で」を参照）、共にいた人たちに手を引いてダマスコへ連れて行ってもらわなければなりません。ダマスコでは、かみさま 神様がアナニヤという ひと 人をサウロの もと 元に送り、サウロの いやし いやしのために いの 祈らせませす。

アナニヤはサウロの うへ 上に手を置いて い 言いました。「兄弟サウロよ。主イエスは、あなたが ふたた 再び み 見えるようになるため、そして せいれい 聖霊に み 満たされるために、わたしを ここ におつかわしになりました。」するとたちどころに、サウロの め 目から うるこ うるこのような お ものが お 落ちて、もととお 元通り み 見えるようになったのです。

そこでサウロは せんれい 洗礼を受け、ダマスコにいた う 弟子たちと共に でし 数日間を す 過ごして、イエス様について おほ 多くを まな 学びます。そしてサウロもまた、かいどう 会堂で、イエス様が かみさま 神様の こ 子であることを、ひとひと 人々に おし 教え始めたのでした。

サウロが かいどう 会堂で ひとひと 人々に おし 教えるようになってから、かなりの にっすう 日数がたつと、いぜん 以前サウロと共に はたら 働いていた ひと 人たちが、サウロを ころ 殺そうと ねらう ねらうようになり、そこで でし 弟子たちはある夜、サウロを よる かごに の 乗せ、まち 町の じょうへき 城壁づたいに お つり下ろして、まち 町の そと 外へ に 逃がしたのでした。



## しとぎょうでんの 使徒行伝：サウロ、かごに乗って 町を脱出する

しとぎょうでん だいしやう せつ  
(使徒行伝 第9章 8-25節)



サウロ(のち) (後にパウロという名前になる) は、まぶしいひかり 光で目が見えなくなり  
 (「使徒行伝：ダマスコへの道みち」を参照)、共にいた人たちに手を引いて  
 ダマスコへ連れて行ってもらわなければなりません。ダマスコでは、神様が  
 アナニヤという人をサウロの元もとに送り、サウロのいやしのために祈いのらせます。

アナニヤはサウロの上に手を置いて言いました。「兄弟サウロよ。主イエスは、  
 あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊せいれいに満たされるために、わたしを  
 ここにおつかわしになりました。」するとたちどころに、サウロの目から  
 うるこのようなものが落ちて、元通り見えるようになったのです。

そこでサウロは洗礼を受け、ダマスコにいた弟子たちと共に数日間を  
 過ごして、イエス様についてさらに多くを学びます。そしてサウロもまた、  
 会堂で、イエス様が神様の子であることを、人々に教え始めたのでした。

サウロが会堂で人々に教えるようになってから、かなりの日数がたつと、  
 以前サウロと共に働いていた人たちが、サウロを殺そうとねらうようにな  
 りました。そこで弟子たちはある夜、サウロをかごに乗せ、町の城壁づたいに  
 つり下ろして、町の外へ逃がしたのでした。

文：聖書の物語を分かりやすくしたもの 絵とデザイン：ディディエ・マーティン